

28 リモン

(ボア戦争の後に)

- 然るべく両膝をふるわせ
こうべを垂れ いとも神妙に
祖国イギリスのために ふたたび
リモンの神殿に拝礼する
- 緞帳が開き トランペットが吹き鳴らされて 5
宦官役人どもが大音声^{だいのんじょう}を張りあげる
戦利品を腹一杯詰め込んだ 金ピカの衣の偶像が
傲慢無礼に 皆を睥睨^{へいげい}する
- 「こちらにおわすお方は畏れ多くも リモン神にあらせられる
みなのもの頭^づが高い 控えおろう」 10
俺は ともに戦った戦友たちが
吹き出しそうになるのをこらえている様子をうかがう
- ああ目に浮かぶ あの灼熱の太陽と熱い砂漠と
石ころだらけの山道
我らの神など知らず からからに乾き嘲笑にみちた地に 15
たどり着く前に歩いたあの死の行軍
- ああ目に浮かぶ 死んでいった戦友たち
百名にも及ぶ死者たちのことを
神命の正しさを信じたものの
その加護を受けなかったものたちのことを 20
- 重傷を負い 泣き叫べども救援は無く
神官はただ待てと命ずるのみ
そう命じつつ 神はぶらぶら出かけ惰眠をむさぼり
女と枕を交わした挙句 酒を喰らう
- (汝リモンを讃えよ 王中の王たるリモンに栄あれ 25
大地と大空を支配するリモンよ

俺は 吊り香炉の揺れる中ふたたびひれ伏す
そして玉座の神はいなくなる)

ああ目に浮かぶ 神の聖典を収めたあの厨子^{ずし}を
神がみそなわすと思われる 30
暗闇と その奥の静寂に 跪^{ひざまず}く
徳高き人々のことを

リモンを引きずりだそうと押し入ったが
目にしたものは
腰のまわりに真紅と黄金^{こがね}の帯を佩^はいた 35
薄汚れた偶像が一体

そいつを槍の取っ手でひっくりかえしてやった
そいつと壮大な夢の絵図を
ラバ追いの嘲笑^{あざわら}の的に
我ら置き去りにされたものたちの笑いものにしてやった 40

犬ころが糞尿でよごした天幕の釘のそば
糞と埃にまみれリモンが横たわっていた
そのうち神官たちが飛んできて大騒ぎし
きれいにしてどこかへ連れていったのだ

弾劾される前に ことをきれいに隠し 45
神官たちは遠く離れた我らが故国に帰り
リモンを再び玉座に座らせた
こいつが我ら兵卒に輝かしい勝利をもたらしたと

なにゆえ両膝をふるわせ
こうべを垂れ いても神妙に 50
祖国イギリスのため この糞たれの死に犬を
リモンの神殿で拜むのか

(柗井幹生訳)